

2014年度 横浜市・地域日本語教室事例発表会

～「わたしたちの教室」の魅力さがし～ 実施報告書

公益財団法人横浜市国際交流協会

- 事業名：横浜市・地域日本語教室事例発表会
- 日時：2015年2月1日（日） 13:00～16:30
- 主旨：①地域日本語教室の特徴的な取組を紹介し、お互いに知りあい、情報交換できる機会を設ける。
②日本語学習支援に興味関心のある方に、市内における地域日本語教室の取組みを周知する。
- 実施：公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
- 会場：横浜市西公会堂 1・2号会議室
- 参加者数：72名
- 当日の内容：



■基調講演 嶋田和子氏

（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事/ 公益社団法人日本語教育学会副会長）

「多文化共生まちづくり」をめざした日本語教室 ～発信、対話、そして協働～

■地域日本語教育に関わる団体によるポスター発表

～「わたしたちの教室」の魅力さがし～

<発表内容> 多文化共生のまちづくりをめざした日本語教室での取組事例

<発表団体> 横浜市内4団体・市外1団体

（順不同）・NPO法人 留学生と語り合う会（RKK）日本語指導グループ

・ユッカの会

・日本語教室「Friendsにし」

・山手日本語教室「絆」

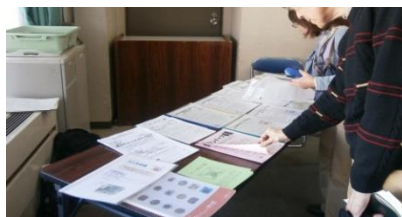
・公益財団法人 武蔵野市国際交流協会日本語コース（横浜市外）

■全体ディスカッション ファシリテーター：嶋田和子氏

■参加者の交流会

ポスター発表とは

- 発表団体の活動内容や特徴を1枚のポスターにまとめ、紹介します。ポスター発表を聞いた参加者は、発表者と意見交換を行ったり、質問をしたりします。近い距離でお互いにやり取りをすることができます。
- 教室で使用している教材や学習者の作品等も展示されます。
- ポスター発表を聞いた参加者は付箋にコメントを残します。



■ポスター発表 地域日本語教育に関わる団体によるポスター発表「わたしたちの教室」の魅力さがし

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK) 日本語指導グループ 1999 年設立

《発表テーマ》 留学生がハッピーになるよう、みんなで運営に参加しながら楽しくやります

《教室の特徴》 ・ 1対1の対話方式 ・ 学習者による日本語スピーチ大会を年1回開催
 ・ 会員(支援者)の日本語指導能力を高めるため、定期的に日本語の教え方講座や日本語の教え方ブラッシュアップ講習会を実施



NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK) 日本語指導グループ

RKKのモットー
 みんなで少しずつ
 会の運営に参加しながら
 留学生がハッピーになるよう
 出来る範囲で
 楽しくやりましょう

RKKの目的
 国際交流と親善を目的とし、主として神奈川県内に在在の外国人留学生及び就学生を中心にあつちから出て出来る範囲の支援を行い、日本における留学体験が豊かなものになるように活動する

3つの絆作りを大切にします
 会員同士の絆
 会員と留学生の絆
 留学生同士の絆

運営
全会員による運営
 ■ 日本語指導講座 サポート
 ■ 工場・研究所・社会見学サポート
 ■ 各種交流会サポート
 ■ マッチングサポート
 ■ 行政拠点担当窓口
 ■ 大学・学生会館担当窓口
 ■ 会費管理
 ■ 会議室予約
 ■ 広報紙発行
 ■ ホームページ管理
 ■ イベントの企画、立案、運営

会員種類
 ■ 正会員
 ■ 賛助会員
 ■ 留学生登録会員
 ■ 非留学生
 ■ 日本語学習会員

会員は次のグループに所属して活動します
 ■ 日本語の個人指導
 ■ 産業視察、工場、研究所見学
 ■ 各種交流会
 ■ 中国語学習
 ■ ファミリー交流

留学生数・指導会員数・マッチング数の推移

年	留学生数	指導会員数	マッチング数
2010	100	50	80
2011	120	60	90
2012	140	70	100
2013	160	80	110

RKKニュース
 「留学生と語り合う」
 会員(留学生、日本人)への定期ニュース(4回/年)

体制

活動グループ	地域交流会	委員会
日本語指導G	東地区	会員
ファミリー交流G	西地区	広報
社会・工場見学G	南地区	企画
中国語学習G	北地区	企画
	中央地区	事務室
	湘南地区	事務室

日本語指導
 留学生に1対1で接しながら日本語の習得を手助けします

会員の指導分野
 ■ 日常会話
 ■ ビジネス会話
 ■ 新聞・書籍の読解
 ■ 卒業・レポートの文章チェック
 ■ 日本語能力試験
 ■ 就職活動(エントリーシート、面接)
 ■ 授業発表
 ■ 論文
 ■ 提出物
 ■ 学生生活
 ■ その他

日本語の日常会話、読書、発音、語彙レポート、論文作成の指導を1対1の対話形式で行っています

指導の場所は東民センターなど駅、市、区の公的施設、および各大学施設などです

会員の日本語指導能力を高めるため、定期的に日本語の教え方講座や日本語の教え方ブラッシュアップ講習会も実施しています

毎年開催されている、留学生による日本語スピーチ大会は、指導者と学習者の成果発表の場となり、共に喜びを分かち合える機会となっています

会員の日本語指導能力アップ支援

● **日本語の教え方講習会**
 日本語の教え方講習会

● **日本語の教え方ブラッシュアップ講習会**
 日本語の教え方ブラッシュアップ講習会

● **日本語スピーチ大会——留学生の発表の場**
 交流会

社会・工場見学
 大学の長期休暇(夏期、冬期および春期の各休暇)の平日に社会・工場見学を実施しています
 秋の土曜日はまた日曜日は近隣の名所旧跡を訪ねる散策も行います

工場見学
 名所旧跡を訪ねて

【訪問先例】
 NHKスタジオパーク、ヤクルト湘南化粧品工場、ナスラック工場、日本銀行、貨幣博物館、地球情報館「親子火力発電所」、江の島散策、日本ゼンシンの墓、日産近江工場、海洋研究開発機構、東京証券所、一畑川口自然公園、JAL機体整備工場、リガルジョイント社、浜離宮恩賜庭園、鉄道歴史展示室、崎陽軒・横浜工場、セブン&アイ伊藤研修センター

ファミリー交流
 ● 横浜国大大学院 IMP (Infrastructure Management Program) で学ぶ学生と会員との1対1での家族ぐるみの交流です
 留学生は生活、勉学の悩みを相談したり一緒に食事、旅行などをして日本文化に対する関心、理解を深めています。
 日本人会員は交流を通じ相手国の状況、文化などを吸収しています
 個別の交流以外にファミリーグループ全体で歓迎会、お茶会、お花見会などを開催し相互理解、交流の深化を図っています

ガーデンパーティー (留学生会館)

● RKK他部門と共同で夏には平塚七夕祭りを開催し日本の夏祭りを楽しみます
 秋には文化祭を開催し日本の伝統的な文化、芸術、工芸などを紹介しています。参加者は伝統的な風俗、祭楽などを実体験し貴重な体験をすることが出来ます

中国語学習
 来日留学生のうち中国留学生は半数を超えています。中国経済の発展を背景にこの傾向は今後ますます強まると見られます
 会員が接触する留学生の多くは中国からの留学生です。そこで、中国留学生を講師とする中国語学習を年間を通じて行なっています
 毎年夏には講師のふるさとを訪ねる中国ツアーを実施して友好を深めています

中国ツアー
 今後は韓国語やベトナム語の学習グループも考えられます

文化祭
 茶道、書道、折り紙、園芸、詩作り、おぼしき、絵画、写真、似顔絵、伝統遊戯(おん玉、コマ回し、ダマ落し)、海外文化の紹介
 RKK文化祭
 平塚七夕祭り

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

●発表を聞いての参加者コメント(原文のまま)

- ・ RKKの活動は留学生にとって大変助かると思います。まわりの留学生たちに紹介したいと思います。
- ・ 留学生が日本語を学ぶだけでなく、先生となって中国語を教える機会がある点がよいと思いました。イベントが豊富な点も留学生に楽しみでよいですね。
- ・ マッチングが大変と思いますが、学生、院生との交流の楽しさがありました。口コミも大切ですね!
- ・ 大学との連携をしっかりとっており、日本人と留学生が相互に楽しんで活動している印象を受けた。

《発表テーマ》 いつも現状を見つめながら、ともに学び、ともに楽しむ

安全、安心、自信が得られ、より豊かな暮らしにつながる活動を目指して

《教室の特徴》 学習者とボランティアが1対1で週1回1.5～2時間、お互いが都合のつく時間に学習しています。学習の内容は、学習者の希望・ニーズに沿うよう各組で工夫しています。ボランティアが学習者の相談にのったり、役所・病院の手続きなどを助けたり、子どもの学校の面談に同席したりと、学習の場以外でも関係を深めている組も多く、学習が終了してからも連絡を取り合っている組もたくさんあります。春・夏・冬の集中教室、キャンプ、バーベキュー会、スピーチ大会などの機会に、ふだんあちこちで活動している学習者とボランティアが交流し、成人を祝う会、卒業を祝う会で会全体で子どもたちの成長を喜び合うことを続けてきました。



ユッカの会
いつも現状を見つめながら、ともに学び、ともに楽しむ
～安全・安心・自信が得られ、より豊かな暮らしにつながる活動を目指して

大切にしていること
《私たちともに暮らしている仲間》
・外国人は、言葉のハンディ、国籍とは異なる生活環境の中で、本来の力を発揮しにくい場面がある
・それを少しでも多くなくしていくために… 隣人として、地域の大人として、それぞれができることをする
→ 誰でもボランティアに！

ふだんの活動 1対1での日本語学習・教科学習支援
子どもに
・話してもらおう
・話を聴く
・共感する
・「見てるよ」を伝える
学習者にとって
よりよい学習となるように
・話を聴いて
・相談しながら
・待つながら
＜集中教室（春・夏・冬）＞
・学校ポストを通じて、先生や子どもに学習の場の存在を知らせる
・学習の場を知った子どもたちが、新しく参加する場

交流活動 ボランティア・学習者が知り合う、つながりをつくる
＜バーベキュー会＞ 世代をこえた交流
＜安全講習会＞
「教える・教わる」が終わっても長く続く関係
＜学習だけにとどまらない生活のお手伝い＞
○役所などの手続き
○同じ立場の外国人や、似た経験をもつ先輩を巻き合わせる
○学校・病院・家探し・仕事探し・相談窓口などへの同行

長く続けてきた活動
＜キャンプ＞ 設立当初1988年から、ボランティアとしてキャンプを行っています
2003年 かつてキャンプに参加していた子ども達が…
＜パソコン教室＞
・仕事を得るための技術
・生活を豊かにするスキル
ローマ字習得
交流会のナラシ
発表・レクチャー
さらなる展開
①中・高校生へのパソコン講座
②高齢者向けのパソコン講座
③中国料理の会を開催
④子どもの料理を体験するおひる

そしてこれから…
＜教員と親み＞
○「人の役に立ちたい、助けたい」という気持ちに共通
○活動していく上での制約が少ない
○多様なボランティア
○家庭学習者
○会員数の多さ
○活動時間・場所がまちまち
○共通認識をもちづらい
＜学びたいこと、これからやりたいこと＞
○一斉メールによる情報提供・情報共有
○ボランティア感謝状
○研修会参加報告
個人の学び 課題意識
みんなの学び 課題意識

●発表を聞いての参加者コメント(原文のまま)

- ・ 支援をうけていた子どもが支援をする側として会に戻ってきてくれるというのがとても印象に残りました。
- ・ パソコン講習会、安全講習会があるのはすばらしい。子どもから老人までトータルサポートはすごい！
- ・ 28年続けてきた実績に只々敬服。公的拠点と130人のボランティアで構成されていることにおどろき、感動した。
- ・ 1対1の手厚い学習支援、そして、会全体での体験共有の両方の取組があり、とても良いと思いました。

日本語教室「Friends にし」 2007年設立

《発表テーマ》「特徴」と「課題」について

《教室の特徴》

- ・マン・ツーマンのプライベートレッスン
- ・学習者のレベルに応じた学習方法
- ・日本語検定（N1～N3）の受験対応
- ・各種新しい教材を購入・活用
- ・アットホーム感覚の環境



2007年（平成19年）開講以来7周年

ボランティアふれんず 日本語教室 Friends にし

●A教室
毎週木曜日
15:10～16:40
西地区センター
小会議室

●B教室
毎週火曜日
19:00～20:30
西地区センター
小会議室

●C教室
毎週木曜日
10:00～11:30
フクシア
団体交流室

何でもOK!
「Friends にし」
気楽に参加できるよ!

特徴

- 自由でアットホームな雰囲気
- 1対1の個別指導
- 日本語検定の受験サポート
- 多種類のテキストを教材に採用
- 日本での楽しい暮らしの一助に

課題

- 学習者の定着と規則的な参加
(今日は誰が来るだろう? 人数は?)
- 日本語能力レベルに応じた学習内
(簡単すぎます! / 全然わかりません...)
- 支援スタッフの複数体制
(先生が替わってばかり、いやです!)
- 学習計画の策定
(今どこ? 目標がみえません)
- 参加者が予想外に多い日の対策
(学習者がこんなに大勢? スタッフがたりないよ!)

交流会

地域別生徒数報告 (2007年～2012年)

No.	地域	生徒数(人)
1	アフリカ	60
2	オーストラリア	8
3	アジア	25
4	ヨーロッパ	2
5	アメリカ	2
6	合計	99

生徒数推移 (2007年～2012年)

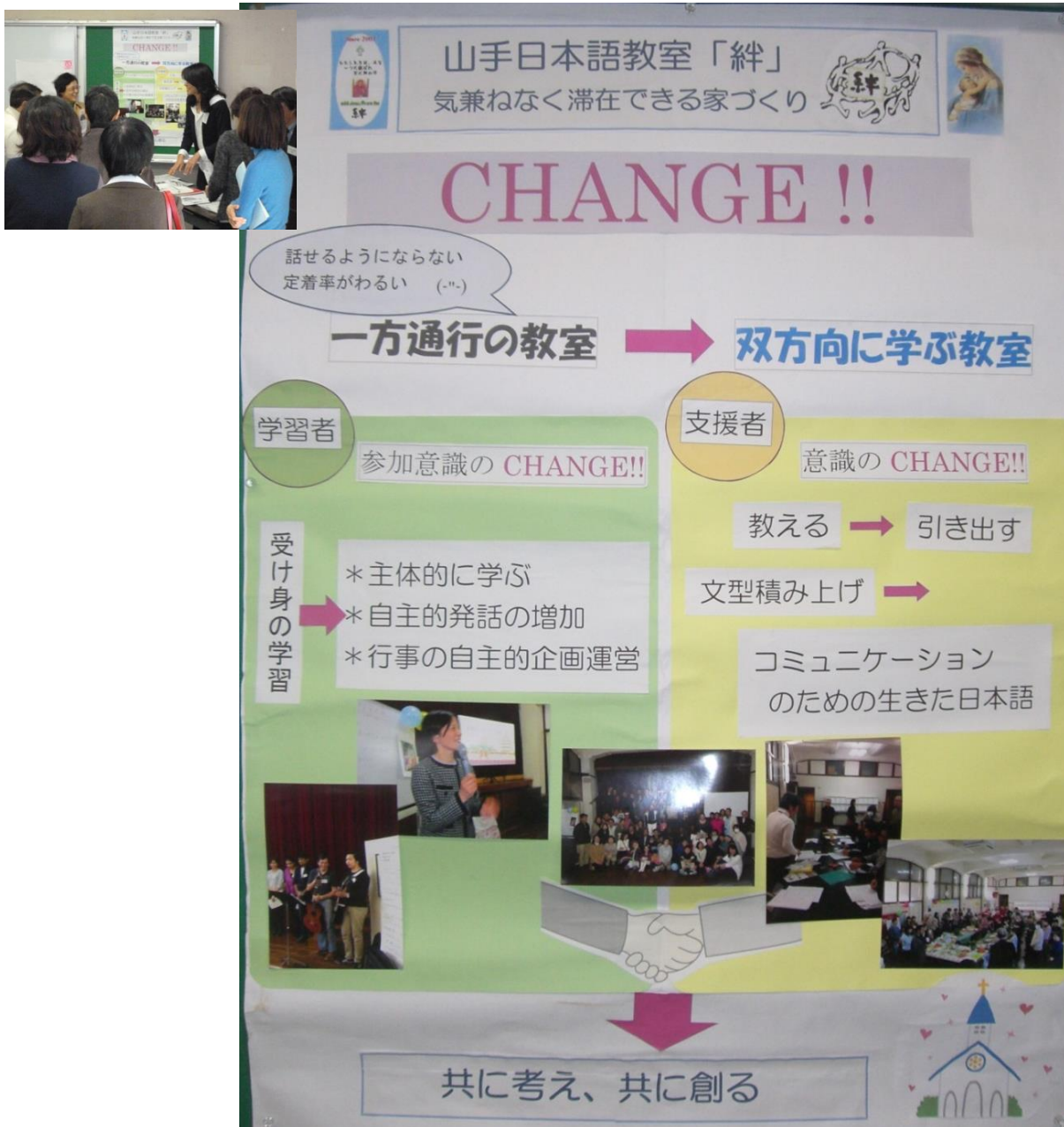
年度	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 地域別生徒数	58	51	51	51	58	71
2 地域別ボランティア	22	42	48	50	62	70
3 地域別教員数	43	43	50	50	70	82
4 地域別一対一数	213	227	268	264	422	488

●発表を聞いての参加者コメント(原文のまま)

- ・最新の教科書を使うなど意欲的に感じた。学習者の定着が課題というのは実感できる。
- ・1対1の形態を大切にしているという点が印象にのこりました。日本語学習者の人が企画に加わっていたという点が素晴らしいと思いました。
- ・小さい団体のよさと苦勞がわかりました。自然体でよかった。
- ・時間を3つに分けているのは仕事を持っている人、主婦と沢山の方が利用できて良いと思います。

《発表テーマ》 CHANGE

《教室の特徴》 皆が一つに結ばれ、ともに神の子であることを意味する「絆」の名の通り、横浜に住む外国人と私たち日本人が融和し、「気兼ねなく滞在できる家」を作ることを目指しています。また、外国人の方がそれぞれのコミュニティの中で日本人と共に不便のない、また不利益を被らない生活ができるよう、日本語学習はもちろん、様々な支援をしていくことを重要な課題としています。

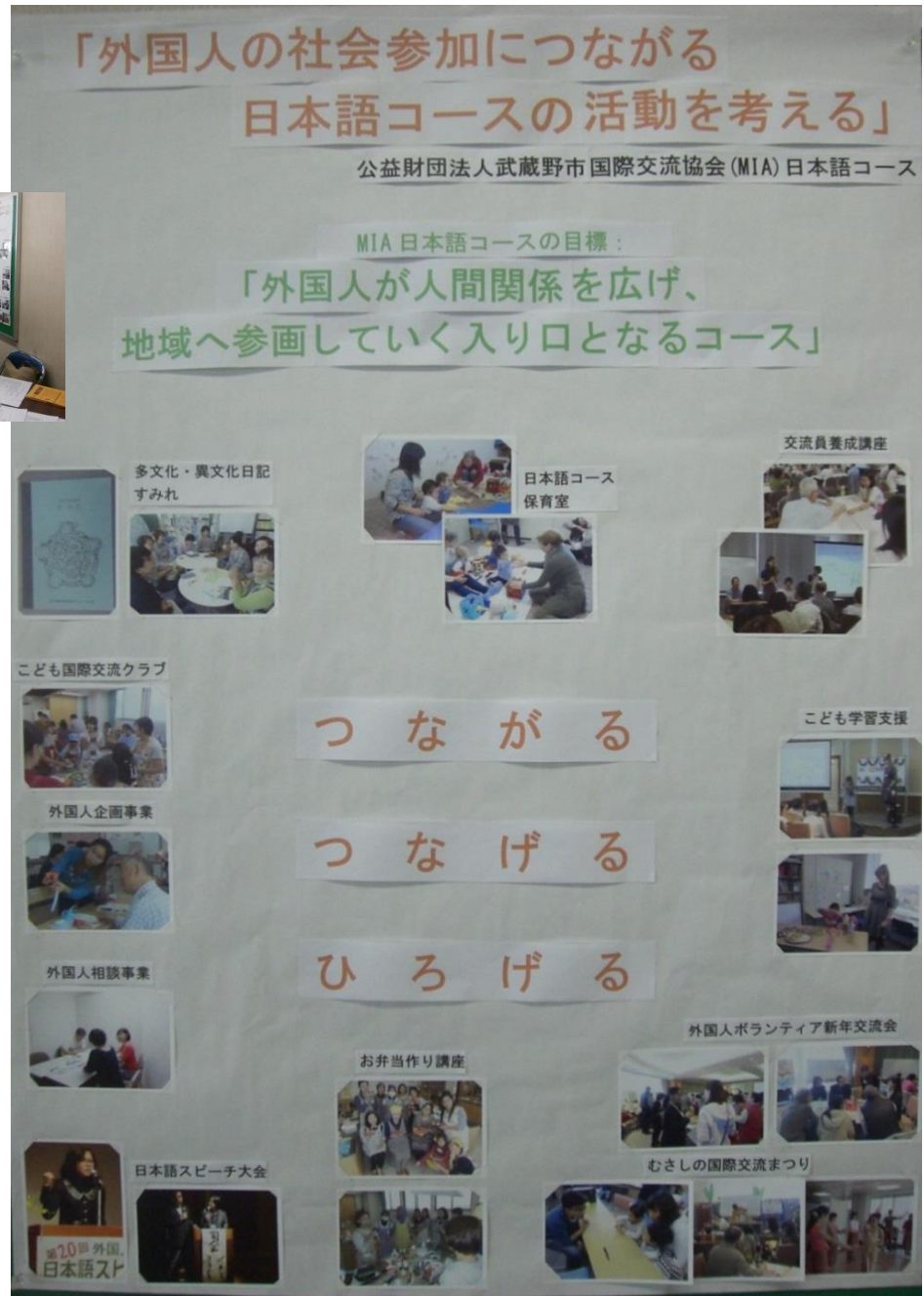


●発表を聞いての参加者コメント(原文のまま)

- ・CHANGE するにも勇気と努力が必要だったかと思いますが、そのCHANGE 力が素晴らしいと思います。学習者さんの変化も見てみたいです。今度、ぜひ見学させて下さい！
- ・支援者の方々のどんな教室を創ろうかということに対する熱心な取り組みが伝わってきました。
- ・皆（学習者もボランティアも）の隠れた才能が自由に発揮できる雰囲気づくりが素晴らしいですね。“力”を信じることですね。
- ・協働の大切さがわかりました。

《発表テーマ》 外国人の社会参加につながる日本語コースの活動を考える

《教室の特徴》 教室活動とマンツーマン交流活動を日本語コースの両輪とします。先生と生徒の関係ではなく、同じ地域に暮らす市民として、互いに学び合うことを基本とします。日時と場所が一定している教室活動では、レベルと目的別に分かれて、日本語の使い方や生活情報を紹介し、日本語交流員と外国人、及び外国人同士の横のつながりを作る場としています。マンツーマン活動では、地域の隣人として交流を目的に、場所や日時を相談して活動します。いずれも外国人の社会参加・多文化共生の地域づくりを目指しています。



●発表を聞いての参加者コメント(原文のまま)

- ・外国人ボランティアと日本人ボランティアがうまくかみあって つながる つなげる ひろげる が上手に有機的に結びついていますネ。
- ・すばらしい活動の数々です。学んだ方がボランティアとなって特技等を生かせるのは良いです。
- ・交流員と参加者という呼び名も親しみがありません。
- ・むさしの国際交流まつりに是非行ってみたいです。

■基調講演 「多文化共生まちづくり」をめざした日本語教室～発信、対話、そして協働～

1. 「多文化共生まちづくりのための日本語教室」5つのポイント

講師：嶋田和子氏



- ①<ともに歩む・ともに社会をつくる>という考えを持つこと。
- ②自分たちの日本語教室の魅力・強みを知ること。
同時に「足りない点」を知ること。
- ③お互いを知るために、それぞれ発信を心がけること。
- ④ネットワークを築き、補完し合って成長していくこと。
- ⑤それぞれ「自らの声」を発し、自己実現の道を見つけること。

2. 課題に向き合う

3. 気をつけたいこと

- ・「場面・文脈の重視」で生きた日本語を学ぶ –<はじめに文型ありき>を捨てる！–
- ・「使える！」「できる！」という気持ちを大切にす –Can-do-statement の活用で達成感アップを図る–
- ・キャリア・デザインとして日本語学習をとらえる –なぜ日本語を学ぶのか– という問いに向き合う–

■ディスカッション ～基調講演・ポスター発表を受けて～

嶋田和子氏のファシリテーションで、会場も含めたやり取りが行われました。宿題の扱いや子どもを連れたお母さんの受け入れなどの具体的な質問の他、外国人が運営スタッフになる時の一番のハードルは何か、学習者の社会参加ニーズをどう見つけていくかなど、幅広い質問がなされ、情報・意見交換が行われました。発表団体からもポスター発表時に参加者と直接間近でやりとりして、「自分たちの強みに気づいた」「日本語支援の中心になるものは同じ」といった感想が聞かれました。また、教室に通っている学習者の方も参加しており、直接コメントをもらうこともできました。



■参加者の交流会

ディスカッションでは話しきれなかった内容、もっと個別に聞きたいことなど、自由に意見交換ができる場となりました。また、「教室に見学に行ってもいいですか。」など新たなつながりも生まれました。

■参加者の声(原文のまま)

- ・いつも気づきをもらい再スタート。
- ・グループの存在は知っていたけど、グループの皆様と直接お話ができ、つながれたことが大変有意義でした。
- ・日本語教室が、どんどんすそのが広がり、幅広い場の社会参加になっていること、おどろきです。
- ・5つの団体が各々創意したポスターと説明を興味深くきくことができました。
- ・短い時間で盛り沢山、すべてが重要だが、消化できなかった。
- ・もっと時間をとり、1つの質問に対するやりとりを深めてもよかったのではないのでしょうか。